

浅間神社例大祭



おみこし は再来年

にぎやかに、それ逆井囃子

逆井の富士浅間神社。七月十五日は真夏の例大祭である。おみこしと逆井囃子の笛太鼓がにぎやかに村内七か所を渡御（とぎよ）するはずである。しかし、四年に一度の「大祭」になり、本番は再来年となっている。神殿にはおみこしが鎮座し、玉ぐし奉典などが行われた。南部地区の各町会長も参加した。

例大祭は神主さんの昇天の儀が終わり、参加者が散じると、席を改めて直会（なおらい）宴会）となる。

隣に座った青年が豪快に飲む。ビールは日本酒になり、同じくらしいの年齢と快活な応対が続く。飲めぬ当方も巻き込まれる。

その酒豪の着ている衣服が異様である。白ずくめ、木綿ではない。綿入りではないけれど、ちよつと厚地だ。そつと触つて聞く。「これ何かの衣装なの」人間ではなかった。

「私はキツネですよ」

面妖なキツネに変身し、踊りまわる走り回るキツネさん！「おかめ、ひよつとこ、キツネ、おかわらい、べろだし、いかりや！」キツネさんが教え始めたところで、外に並んだ横笛、大太鼓、小太鼓、鉦が鳴り出し、踊り人が飛び込んでくる。二、三人ずつ、当意即妙の踊りを見せる。

横笛さんが飛び出してくる。こういうアドリブ調の、楽しい逆井囃子を見たのは初めてである。面をかぶって立ち代り入れ替わり。これが逆井囃子二五〇年の真髓なのだろう。

浅間神社には稲敷市の大杉神社が分祀されている。21日には、そのお祭りが行われ、真夏の、鎮守様の例大祭は完了した。